

令和3年度第1回 鳴門市児童福祉審議会 会議概要

日 時 令和3年11月18日(木) 15時00分～

場 所 消防庁舎3階 会議室

出席者 委員15名、関係課・事務局職員13名

欠席者 委員2名

傍聴者 1名

概 要

1 開 会

2 会長あいさつ

3 委員自己紹介

4 議 事

(1) 鳴門市子ども・子育て支援事業計画 令和2年度実績報告について

鳴門市子ども・子育て支援事業計画に掲載している各事業の令和2年度実績について、事務局より報告しました。

(委員)

保育園や小学校などが、もう二つ、三つあれば良いのではないかというような話も聞かれる。この点については色々と議論もあったと思うが、結婚・出産・子育てをしやすい環境づくりについて、どのように考えているのか。何か対策は考えているのか。

(事務局)

市独自でしている施策としては、コロナ禍で国が行っていた国民1人あたり10万円給付を、今年度も新生児を対象に継続して行っている。コロナが流行し、一時期出生数がかなり減っていたが、こういった様々な施策を展開していくうちに、現在は減少が止まり、回復傾向にある。今後も、子育てしやすい環境を作っていくことで、少子化に歯止めをかけていけるよう、妊娠・出産・子育ての色々なステージで施策を充実させていく。

(委員)

子どもが大きくなったら、北島町や藍住町へ引っ越していくという話をよく聞く。鳴門市で、近隣自治体に負けないだけの子育てに関する方針を出してほしい。

(事務局)

鳴門市に住んでいるときには普通に思っている、他市に引っ越したときに初めて良い施策だったと気付くという、鳴門市独自の施策もあると思う。そのような部分のPRをしていくということと併せて、先程も述べたように、色々なステージにおいて支援をしていけるような施策を打ち出していきたいと考えている。

(委員)

鳴門市の良いところについて、どんどんと広報をしてほしい。

(委員)

もう少し、地域の子どもの長い目で支援できたら良いと思う。それができれば、もっと住みやすい、子育てしやすいような世の中ができるのではないかと考えている。

(委員)

コロナ禍において、お母さんたちは本当に毎日子どもと向き合って大変な生活をしている。そのような中で、預かる側としては、もっとお母さんたちが頑張れる、子育てって楽しいと思えるような環境を作っていけたらと思う。鳴門市から他市へ引っ越した方が、引っ越してから鳴門市の子育て環境の良さに気付くという話があったが、それはつまり、PRが上手くできていないということだと思う。鳴門市は、現場で働く保育士等への補助についても手厚いと思うので、まず私たちがそういうことに自信を持ち、色々なところに情報発信していく必要があるのではないか。

(委員)

子どもが大きくなったら北島町や藍住町へ引っ越す方が多いという原因の一つに、やはり高校の学区制のことがかなり大きく影響しているようだ。今現在、2歳・3歳の子どものお母さんでも、何人もの方が、そのことを話している。学区制に関して少しでも改善するように、様々な面から何らかの形で取り組んでいただけたらと思う。

(会長)

私は鳴門市以外の色々な園も訪問しているが、鳴門市の園は本当に良いと思っている。一番良いと思うのは、先生が子どもたちだけでなく、保護者の悩みや相談にも真剣に向き合っているということだ。何か大々的にPRするという手もちろん必要だと思うが、こういった魅力がSNS等の口コミでどんどん広がっていけば良いと思う。

環境の面では、やはり行政の問題なので、どういう考えやプロジェクトがあるのか、しっかりとプランを立てていただきたい。そして先生方にはぜひ、今まで以上に子どもたちや保護者を含めて、人間関係を良好に保っていただきたい。人間関係が良好であれば、まず子どもたちが幸せになり、その幸せな子どもを見て親も幸せになり、トラブルは少なくなるだろうというのが私の持論だ。また、先生方が幸せに保育するのが一番なので、先生のメンタルケアも必要かと思っている。

(2) 第2期鳴門市子ども・子育て支援事業計画に関わる変更について

第2期鳴門市子ども・子育て支援事業計画に関わる変更について、事務局より説明を行いました。

- ①令和3年度保育施設の定員変更について
- ②令和4年度保育施設の定員変更・新設施設について
- ③公立保育所について

(委員)

瀬戸町では、中学校が北灘町と合併、小学校は明神小学校一校になるなど、休校が相次いでいる。しかしながら、それぞれの地域で子育てをしている人は以前よりかなり増えてきたと感じている。幼稚園や保育所を復活させ、子育てしやすい地域にしていくということはできないものか。

(事務局)

一旦休校・休園した施設を再開するという点について、地域の方々はそれぞれの学校に非常に思い入れがあるため、同じような意見をおっしゃる方はおいでになる。しかし基本的には、施設の運営については、コスト面や、集団生活の中での学びが非常に意味あることだということを見ると、少ない人数で学校・幼稚園を運営していくことは、少し難しい面がある。地域で子どもが増えてくれば、もちろん再開ということもあり得るかと思うが、現状として市全体で子どもの数が減っているということを見ると、現実的には一旦閉じた学校・幼稚園を再開するというのは、今のところ難しいのではないかと考えている。ご理解いただきたい。

(委員)

一時預かりのような形でもできるような施設があれば、地域で子育てをしている方が安心し

て、2人目、3人目の子どもを持つことを考えてくれるのではないかと思っている。よろしく
お願いしたい。

(委員)

新公立保育所の定員についてはどうなっているのか。

(事務局)

新公立保育所については、現在は実施設計が完了したところで、建物の大体の規模が固まっ
てきており、定員設定については50名を想定している。現在の林崎・中央両保育所の利用児
童数合計が46名となっており、現在の定員と同規模となる。

(委員)

林崎保育所・中央保育所については、閉所ということか。

(事務局)

そうだ。両保育所の跡地利活用については、市役所内部でも協議をしていくが、そもそも建
て替えて1か所に集約する理由が、耐震面での懸念があるところなので、跡地で子ども
を預かったりすることは厳しい。

(会長)

今は、いつ地震があってもおかしくないという状況なので、子どもの安全面からいうと耐震
設備のしっかりした保育所ができるというのは良いことだ。利用者にとっては、今まで通っ
ていたところと場所が違って少し遠くなるなどの不便さがあるかもしれないが、新しい施設にな
ることでカバーできるものの方が多いかと思う。

(事務局)

施設の集約と併せて、保育士も集約するので、集約によって余った正規職員で、休日預かりや一
時預かり、病児保育もしていく。サービスの面でも拡充していくという構想だ。

(会長)

現在の進行状況はどうか。

(事務局)

現在、造成工事に着手している。

(委員)

来年度から、鳴門市の幼稚園が、閉園等により7園になる。成稔幼稚園については、公私連携幼
保連携型の認定こども園となるということだが、1号認定の定員が2号認定の定員より多いのはな
ぜか。共働き世帯が多く、2号のニーズの方が高いのではないか。

(事務局)

定員設定については、鳴門市と社会福祉法人いずみ福祉会とで話し合った上で決定した。一般的
な1号認定幼稚園は、原則として保育を必要としない児童が通っている、というものだが、鳴門市
では全幼稚園が午後預かりをしているため、公立幼稚園であっても、保護者の就労との両立ができ
るという特殊な状況がある。今回の定員設定にあたっては、現在成稔幼稚園に通っている子どもた
ちが、引き続き同じ施設で利用できるというところに、市の方で重きを置いたため、1号の定員
の方が多くなっている。一般的な1号認定の定員というよりは、鳴門市型の1号認定の定員と捉えて
いただきたい。今の成稔幼稚園に、新たに2号認定がくっついたというような認識を持っていただ
けたらと思う。

(委員)

現在、鳴門市では、1号の中にあるいわゆる「新2号」と言われる部分で、午後預かりをしてい

と思うが、新しくできる成稔認定こども園を選ぶ際に、保護者が新2号か2号かを自分で選択することはできるのか。

(事務局)

幼稚園の1号・新2号に関しては、公立・私立にかかわらず、まずは施設に入園の承諾をしていただかないといけないという仕組みになっている。希望する園にそれぞれが願書を提出し、そこで合格をもらって初めて入園が叶う。一方2号認定に関しては、第1希望から第4希望まで書いた紙を鳴門市に提出し、鳴門市の方で選考をして、その方に利用できる保育施設を案内するという仕組みとなっており、必ずしも第1希望の施設に入れるとは限らない。市の2号認定の募集時期と、成稔こども園の1号認定の募集時期が同じであり、2号認定の定員が少ないため、どうしても成稔こども園に入りたいという方には、1号との併願をお勧めしている。

(会長)

保護者は必死だと思うので、できるだけ丁寧な案内をお願いしたい。

(3) 保育施設利用児童数について

保育施設利用児童数について、事務局より説明を行いました。

<意見・質問なし>

(4) その他

今後のスケジュールについて、事務局から説明を行いました。※今年度は、第1回の会議をもって終了となる見込み。

5 閉会